

# 西濃農林事務所の普及活動状況

平成29年5月31日現在

## 今月の重点活動

### ■小麦 高品質な小麦生産を目指して～適期の病害防除及び収穫を指導～

西濃地域の小麦は「イワイノダイチ」と「さとのそら」が作付されている。4月中旬以降、出穂期を迎えたことから、農業普及課とJAにしみのは赤かび病の適期防除を各営農組織に周知徹底を図った。赤かび病発生的好適気象条件日はあったものの、適期防除のおかげで、今年度は赤かび病の発生は確認されていない。

今後、ほ場巡回及び担い手を対象とした会議を通じて適期収穫に向けた支援を行う。

## 多様な担い手づくり

### ■4Hクラブ 西南濃4Hクラブ連絡協議会、海津市4Hクラブ通常総会が開催される

西南濃4Hクラブ連絡協議会の会員は、キュウリ、トマト、酪農、施設野菜の農家8人で構成される組織であり、県連4Hクラブの西濃支部でもある。昨年は全国農業担い手サミットinぎふで本部構成員としての役割を担った。また、海津市4Hクラブは、西南濃4Hクラブの会員に2人加わった合計10人で構成されている。毎年、海津地域で開催される農業祭などに参加しており、全国農業担い手サミットinぎふでは、地元交流会開催に協力した。5月12日に、両クラブの通常総会が海津市で開催され、海津市長出席の下、事業計画や活動方針等が協議され、関係機関による活動支援も確認された。

農業普及課からは地域の若い担い手としてのグループ活動の継続と強化を呼びかけるとともに、農作業安全の注意喚起も行った。

### ■家族経営協定 大垣市で調印式が行われる

5月17日、大垣市の認定農業者（水谷良一さん、平成8年より認定、営農類型：水稻）が、経営移譲を目指した家族経営協定を後継者である昌史（あつし）さんと締結した。調印式には大垣市農林課、大垣市農業委員会、西濃農林事務所農業普及課が立ち会った。

農業普及課として、担い手の経営の持続を期待するものであり、協定を節目に水谷ファームの経営改善を再確認し、次世代に農業経営がスムーズに引き継げるよう、激励の言葉を述べた。



【調印式記念撮影】

## 売れるブランドづくり

### ■水稻 密播疎植による実証ほ設置支援

農業普及課は、4月25日に水稻生産における低コスト及び省力化を目的として、JA、メーカーと連携して垂井町でコシヒカリを用いた密播疎植による実証ほを設置した。

箱あたりの播種量を増やすとともに、田植え時のかきとり量を調整し疎植することにより、10aあたりの使用箱数は6.5箱、作業時間は15分程度であった。

今後は生育調査を行い、慣行栽培との比較・検討をしていく。



【写真左：密播苗、右：慣行苗】

## ■ トマト 海津トマト部会全員研究会開催

海津トマト部会全員研究会が、5月17日に海津営農センターにて開催された。平成29年産では、Nターン誘引に取り組んだ生産者が1人から9人に増加した。平成30年産においては、取り組む生産者がさらに増えることが巡回時の意向把握から予想されるため、取り組み事例や新たな知見を説明した。また、栽培環境制御を測定器を用いて「見える化」したり、炭酸ガス発生装置を導入する生産者も増加したため、生育状況や収量（効果）等について報告をした。特にNターン誘引についての関心は高く、作業の労力軽減は生産者全体の課題であると改めて感じられた。

## ■ 茶 一番茶の刈取りが行われる～大垣市、垂井町～

不帰茶生産組合では、5月6日から5月12日まで一番茶の刈取りが行われた。春先の気温が低く推移し、昨年より3日遅い刈取りとなったが、品質の良いお茶が生産された。

大垣市上石津地区では、5月10日に恒例の多良小学校茶摘み体験教室（食農教育）が行われ、20kgを目標に手摘み収穫し、手もみ体験も行われた。

農業普及課では今後、難防除害虫であるクワシロカイガラムシの防除適期指導を行う予定である。



【茶摘み体験教室】

## ■ 牧園芸組合 総会を開催

4月28日に第41回 牧園芸組合通常総会が開催され、平成28年度の事業報告等が議事検討された。組合員の減少、気象要因や病害虫の発生、他産地の影響もあり、組合全体の出荷額は対前年97%となったが なす、えだまめ、インゲンなどは昨年度を上回った。

農業普及課からは「ぎふクリーン農業による安全・安心な農業の推進」と題して、GAP（生産工程管理）、鳥獣害対策、農薬の安全使用、農作業安全等について講習を行った。

## ■ マコモタケ 関係機関が力を合わせて栽培を支援

大垣市西大外羽にある水田約40aで、マコモタケの植え付けを5月2日と10日にマコモタケ研究会並びにOKB農場が行った。

5月2日は、苗場からの株分け作業から行い、条間2m・株間1.8mで早生品種を植え付けした。10日は中生品種の植え付け作業のみを行い、農業普及課とJAにしみの担当者は、栽培支援を行った。

また、大垣養老高校（生徒5人、教師2人）が2日間、大垣特別支援学校（生徒6人、教師2人）が10日に植え付け体験に参加した。10日は、報道機関が研究会、大垣養老高校、大垣特別支援学校を取材し、大垣市の担当者が取材支援を行った。

農業普及課は、10月頃の収穫の支援も行う予定である。



【マコモタケの植え付け】